



クライアントの設定

- [クライアント設定のワークフロー](#) (1 ページ)
- [クライアント設定の概要](#) (1 ページ)
- [Unified CM でのクライアント設定パラメータの設定](#) (2 ページ)
- [クライアント設定ファイルの作成とホスト](#) (4 ページ)
- [電話の設定でのパラメータの設定：デスクトップクライアント向け](#) (9 ページ)
- [電話の設定でのパラメータの設定：モバイルクライアント向け](#) (11 ページ)
- [任意のプロキシ設定](#) (12 ページ)

クライアント設定のワークフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	クライアント設定の概要	
ステップ 2	統一された CM(最高の優先順位)でクライアント設定パラメータを設定するか、クライアント設定ファイルを作成してホストします。	
ステップ 3	電話の設定でのパラメータの設定：デスクトップクライアント向け	
ステップ 4	電話の設定でのパラメータの設定：モバイルクライアント向け	
ステップ 5	プロキシ設定の設定: オプション	

クライアント設定の概要

Cisco Jabber は、次のソースから設定を取得できます。

- サービス プロファイル : Cisco Unified Communications Manager リリース 9 以降の UC サービスプロファイルで一部のクライアント設定を構成できます。ユーザがクライアントを起動すると、クライアントは DNS SRV レコードを使用して Cisco Unified Communications Manager ホーム クラスタを検出し、自動的に UC サービスプロファイルから設定を取得します。
- 電話の設定 : Cisco Unified Communications Manager リリース 9 以降の電話の設定で一部のクライアント設定を構成できます。クライアントは、UC サービスプロファイルの設定に加え、電話の設定から設定を取得します。
- Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service : インスタントメッセージおよびプレゼンスの機能を有効にして、プレゼンスサブスクリプション要求などの特定の設定を構成できます。
[詳細設定 (Advanced settings)] ウィンドウで [Cisco IM & Presence] を選択すると、クライアントが Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service から UC サービスを取得します。クライアントはサービスプロファイルまたは SSO 検出を使用しません。
- クライアント設定 : ユーザがサインインしたときに適用されるクライアント設定パラメータを設定できます。次のいずれかを行います。
 - Unified CM でクライアント設定パラメータを設定します。
 - 設定パラメータを含む XML エディタを使って XML ファイルを作成します。その後、TFTP サーバで XML ファイルをホストします。

Unified CM でのクライアント設定パラメータの設定

クライアントの設定パラメータを設定し、Unified CM でサービスプロファイルに割り当てます。

iPhone、iPad および Android 版 Cisco Jabber については、次のようにパラメータを設定する必要があります。

- オンプレミス展開のディレクトリ統合。
- ハイブリッドクラウド展開のボイスメール サービス クレデンシャル。



(注) ほとんどの環境で、Windows 版 Cisco Jabber と Mac 版 Cisco Jabber は、サービスに接続するための設定を必要としません。自動更新、問題報告、ユーザポリシーとオプションなどのカスタム コンテンツが必要な場合にのみ、設定パラメータを作成します。

手順

-
- ステップ1 [Jabber 設定パラメータの定義 \(3 ページ\)](#)
 - ステップ2 [サービスプロファイルへの Jabber クライアント設定の割り当て \(3 ページ\)](#)
-

Jabber 設定パラメータの定義

統一された CM を使用すると、Jabber クライアントの設定を含む UC サービスに関する情報の追加、検索、表示、および保守を行うことができます。

手順

-
- ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ2 [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Service)] を選択します。
 - ステップ3 [新規追加 (Add New)] を選択します。
 - ステップ4 UC サービス タイプとして **Jabber クライアント設定 (jabber-config.xml)** を選択します。
 - ステップ5 [Next] を選択します。
 - ステップ6 [UC サービス情報 (UC Service Information)] セクションで名前を入力します。詳細な要件については、「統一型ヘルプ」を参照してください。
 - ステップ7 パラメータの詳細については、**Jabber 設定パラメータ**セクションでパラメータを入力してください。パラメータの詳細については、『Cisco Jabber のパラメータリファレンスガイド』の最新版を参照してください。
 - ステップ8 保存を選択します。
-

サービスプロファイルへの Jabber クライアント設定の割り当て

統一CMを使用すると、サービスプロファイルを使用してJabberクライアント設定をユーザに割り当てることができます。

手順

-
- ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ2 [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [サービス プロファイル (Service Profile)] の順に選択します。
 - ステップ3 [新規追加 (Add New)] を選択するか、または jabber クライアントの設定に割り当てる既存のサービスプロファイルを選択します。

ステップ4 [Jabber クライアント設定 (jabber-config)] セクションで、プロファイルに適用する設定の名前を選択します。

ステップ5 保存を選択します。

クライアント設定ファイルの作成とホスト

クライアント設定ファイルを作成して、それらを Cisco Unified Communications Manager TFTP サービス上でホストします。

iPhone、iPad および Android 版 Cisco Jabber では、以下をセットアップするためにグローバル コンフィギュレーション ファイルを作成する必要があります。

- オンプレミス展開のディレクトリ統合。
- ハイブリッドクラウド展開のボイスメール サービス クレデンシャル。



(注) ほとんどの環境で、Windows 版 Cisco Jabber と Mac 版 Cisco Jabber は、サービスに接続するための設定を必要としません。自動更新、問題報告、ユーザポリシーとオプションなどのカスタム コンテンツが必要な場合にのみ、コンフィギュレーション ファイルを作成します。

始める前に

次のコンフィギュレーション ファイル要件に注意してください。

- コンフィギュレーションファイル名には大文字と小文字の区別があります。エラーを回避し、クライアントが TFTP サーバからファイルを取得できるよう、ファイル名には小文字を使用してください。
- 設定ファイルには、utf-8 エンコーディングを使用してください。
- クライアントは、有効な XML 構造のない設定ファイルは読み込めません。設定ファイルの構造で終了要素をチェックし、その要素が正しくネストされていることを確認します。
- 設定ファイルでは、有効な XML 文字エンティティ参照のみが許可されます。たとえば、& の代わり & を使用します。XML に無効な文字が含まれている場合は、クライアントは設定ファイルを解析できません。

コンフィギュレーション ファイルを検証するには、Microsoft Internet Explorer でそのファイルを開きます。

- Internet Explorer に XML 構造全体が表示された場合、設定ファイルは有効です。
- Internet Explorer に XML 構造の一部しか表示されない場合は、設定ファイルに無効な文字またはエンティティが含まれている可能性があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	TFTP サーバアドレスの指定 (5 ページ)	クライアントが設定ファイルにアクセスできるようにするための TFTP サーバアドレスを指定します。
ステップ 2	グローバル設定の作成 (6 ページ)	展開でユーザ用のクライアントを設定します。
ステップ 3	グループ設定の作成 (7 ページ)	ユーザのセットごとに異なる設定を適用します。
ステップ 4	設定ファイルのホスト (8 ページ)	TFTP サーバ上でコンフィギュレーションファイルをホストします。
ステップ 5	TFTP サーバの再起動 (8 ページ)	TFTP サーバを再起動して、クライアントがコンフィギュレーションファイルにアクセスできるようにします。

TFTP サーバアドレスの指定

クライアントは、TFTP サーバから設定ファイルを取得します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	クライアントが設定ファイルにアクセスできるようにするための TFTP サーバアドレスを指定します。	<p>注目</p> <p>Cisco Jabber が DNS クエリーから <code>_cisco-uds SRV</code> レコードを取得すれば、自動的にユーザのホーム クラスタを特定できます。その結果、クライアントは Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスを特定することもできます。</p> <p><code>_cisco-uds SRV</code> レコードを展開する場合は、TFTP サーバアドレスを指定する必要はありません。</p>

電話モードでの TFTP サーバの指定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>電話機モードでクライアントを展開する場合、TFTP サーバのアドレスを次のように指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザはクライアントの起動時に、TFTP サーバアドレスを手動で入力します。 • TFTP 引数を使用してインストール時に TFTP サーバアドレスを指定します。 	

グローバル設定の作成

クライアントは、サインインシーケンスの間に TFTP サーバからグローバル設定ファイルをダウンロードします。展開に含まれるすべてのユーザに対してクライアントを設定します。

始める前に

設定ファイルの構造が有効でない場合、クライアントは設定した値を読み取ることができません。詳細については、この章の XML サンプルを確認してください。

手順

ステップ 1 任意のテキスト エディタで `jabber-config.xml` という名前のファイルを作成します。

- ファイル名には小文字を使用してください。
- UTF-8 エンコーディングを使用してください。

ステップ 2 `jabber-config.xml` で必要な設定パラメータを定義します。

ステップ 3 TFTP サーバ上でグループ設定ファイルをホストします。

環境内に複数の TFTP サーバが存在する場合は、すべての TFTP サーバのコンフィギュレーションファイルが同じであることを確認します。

グループ設定の作成

グループ コンフィギュレーション ファイルは、ユーザのサブセットに適用され、Cisco Jabber for desktop (CSF デバイス) モバイルと Cisco Jabber for mobile デバイスでサポートされます。グループ設定ファイルは、グローバル設定ファイルよりも優先されます。

CSF デバイスでユーザをプロビジョニングする場合は、デバイス設定の[シスコサポートフィールド (Cisco Support Field)]フィールドでグループ コンフィギュレーションファイル名を指定します。ユーザが CSF デバイスを所有していない場合は、インストール中に TFTP_FILE_NAME 引数を使用してグループごとに一意のコンフィギュレーション ファイル名を設定します。

始める前に

設定ファイルの構造が有効でない場合、クライアントは設定した値を読み取ることができません。詳細については、この章の XML サンプルを確認してください。

手順

ステップ 1 任意のテキスト エディタを使用して XML グループ設定ファイルを作成します。

グループ設定ファイルには、適切な名前を指定できます (例: jabber-groupa-config.xml)。

ステップ 2 グループ設定ファイルで必須の設定パラメータを定義します。

ステップ 3 該当する CSF デバイスにグループ コンフィギュレーション ファイルを追加します。

- a) [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
- b) [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- c) グループ設定ファイルを適用する適切な CSF デバイスを検索して選択します。
- d) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] > [デスクトップクライアント設定 (Desktop Client Settings)] に移動します。
- e) [シスコサポートフィールド (Cisco Support Field)] フィールドに、`configurationfile=group_configuration_file_name.xml` と入力します。たとえば、`configurationfile=groupa-config.xml` と入力します。

(注) TFTP サーバ上でデフォルト ディレクトリ以外の場所にあるグループ設定ファイルをホストする場合は、パスとファイル名を指定する必要があります (例: `configurationfile=/customFolder/groupa-config.xml`)。

複数のグループ設定ファイルは追加しないでください。クライアントは [シスコサポートフィールド (Cisco Support Field)] フィールドの最初のグループ設定のみを使用します。

- f) [保存 (Save)] を選択します。

ステップ4 TFTP サーバ上でグループ設定ファイルをホストします。

設定ファイルのホスト

設定ファイルは任意の TFTP サーバでホストできます。ただし、デバイス設定ファイルが存在する Cisco Unified Communications Manager TFTP サーバで設定ファイルをホストすることをお勧めします。

手順

ステップ1 Cisco Unified Communications Manager で **Cisco Unified OS** の管理インターフェイスを開きます。

ステップ2 [ソフトウェアのアップグレード (Software Upgrades)] > [TFTP ファイル管理 (TFTP File Management)] を選択します。

ステップ3 [ファイルのアップロード (Upload File)] を選択します。

ステップ4 [ファイルのアップロード (Upload File)] セクションで [参照 (Browse)] を選択します。

ステップ5 ファイル システム上の設定ファイルを選択します。

ステップ6 [ファイルのアップロード (Upload File)] セクションの [ディレクトリ (Directory)] テキストボックスに値を指定しないでください。

設定ファイルが TFTP サーバのデフォルト ディレクトリに格納されるように、[ディレクトリ (Directory)] テキストボックスの値は空のままにします。

ステップ7 [ファイルのアップロード (Upload File)] を選択します。

TFTP サーバの再起動

クライアントが設定ファイルにアクセスできるようにするには、その前に TFTP サーバを再起動する必要があります。

手順

ステップ1 Cisco Unified Communications Manager で **Cisco Unified Serviceability** インターフェイスを開きます。

ステップ2 [ツール (Tools)] > [コントロールセンターの機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。

ステップ3 [CM サービス (CM Services)] セクションから [Cisco Tftp] を選択します。

ステップ4 [リスタート (Restart)] を選択します。

再起動の確認を求めるウィンドウが表示されます。

ステップ5 [OK] を選択します。

「Cisco Tftp サービスの再起動操作が成功しました (Cisco Tftp Service Restart Operation was Successful) 」というステータスが表示されます。

ステップ6 [更新 (Refresh)] を選択し、Cisco Tftp サービスが正常に起動していることを確認します。

次のタスク

設定ファイルが TFTP サーバで使用できることを確認するには、任意のブラウザで設定ファイルを開きます。通常、`http://tftp_server_address:6970/jabber-config.xml` の URL にあるグローバル設定ファイルにアクセスできます。

設定ファイル

`jabber-config.xml` 設定ファイルの構造、グループ要素、パラメータ、および例については、『[Parameters Reference Guide for Cisco Jabber](#)』を参照してください。

電話の設定でのパラメータの設定：デスクトップクライアント向け

クライアントは、Cisco Unified Communications Manager 上の次の場所から電話の各種設定を取得できます。

[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]

クラスタ全体に適用されます。

[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)]

デバイスのグループに適用され、クラスタの設定よりも優先されます。

[Cisco Unified Client Services Framework (CSF) 電話機の設定 (Cisco Unified Client Services Framework (CSF) Phone Configuration)]

個別の CSF デバイスに適用され、グループの設定よりも優先されます。

電話の設定のパラメータ

次の表は、電話の設定の [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションで設定できる、およびクライアントの設定ファイルからの対応するパラメータをマッピングできる設定パラメータを示します。

デスクトップクライアントの設定	説明
ビデオ コール (Video Calling)	<p>ビデオ機能を有効または無効にします。</p> <p>有効 (Enabled) (デフォルト) ユーザはビデオ通話を送受信できます。</p> <p>無効 (Disabled) ユーザはビデオ通話を送受信できません。</p> <p>制約事項 このパラメータは、CSFのデバイス構成でのみ使用可能です。</p>
ファイル転送でブロックするファイルタイプ (File Types to Block in File Transfer)	<p>ユーザによる特定のファイルタイプの転送を制限します。</p> <p>値として、.exe などのファイル拡張子を設定します。</p> <p>複数のファイル拡張子を区切るには、セミコロンを使用します。例： .exe;.msi;.rar;.zip</p>
電話制御で自動的に開始 (Automatically Start in Phone Control)	<p>クライアントが初めて起動するときにユーザの電話のタイプを設定します。初回の起動後にユーザは電話のタイプを変更できます。クライアントはユーザ設定を保存し、次回以降の起動時にこの設定を使用します。</p> <p>有効 (Enabled) 通話にデスクフォン デバイスを使用します。</p> <p>無効 (Disabled) (デフォルト) 通話にソフトフォン (CSF) デバイスを使用します。</p>
Jabber For Windows ソフトウェア アップデート サーバ URL (Jabber For Windows Software Update Server URL)	<p>クライアント アップデート情報を保持する XML 定義ファイルへの URL を指定します。クライアントは、この URL を使用して Web サーバから XML ファイルを取得します。</p> <p>ハイブリッドクラウド導入環境では、Cisco Webex を使用して自動更新を設定することをお勧めします。</p>
問題レポート サーバ URL (Problem Report Server URL)	<p>ユーザが問題レポートを送信できるようにするカスタム スクリプトの URL を指定します。</p>

電話の設定でのパラメータの設定：モバイルクライアント向け

クライアントは、Cisco Unified Communications Manager 上の次の場所から電話の各種設定を取得できます。

- [Cisco Dual Mode for iPhone (TCT) 設定 (Cisco Dual Mode for iPhone (TCT) Configuration)] : 個別の TCT デバイスに適用され、グループ設定より優先されます。
- [Cisco Jabber for Tablet (TAB) 設定 (Cisco Jabber for Tablet (TAB) Configuration)] : 個別の TAB デバイスに適用され、グループ設定より優先されます。

電話の設定のパラメータ

次の表は、電話の設定の [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションで設定できる、およびクライアントの設定ファイルからの対応するパラメータをマッピングできる設定パラメータを示します。

デスクトップクライアントの設定	説明
ビデオ コール (Video Calling)	<p>ビデオ機能を有効または無効にします。</p> <p>有効 (Enabled) (デフォルト) ユーザはビデオ通話を送受信できます。</p> <p>無効 (Disabled) ユーザはビデオ通話を送受信できません。</p> <p>制約事項 このパラメータは、CSF のデバイス構成でのみ使用可能です。</p>
ファイル転送でブロックするファイルタイプ (File Types to Block in File Transfer)	<p>ユーザによる特定のファイルタイプの転送を制限します。</p> <p>値として、.exe などのファイル拡張子を設定します。</p> <p>複数のファイル拡張子を区切るには、セミコロンを使用します。例：</p> <pre>.exe;.msi;.rar;.zip</pre>

デスクトップクライアントの設定	説明
電話制御で自動的に開始 (Automatically Start in Phone Control)	<p>クライアントが初めて起動するときにユーザの電話のタイプを設定します。初回の起動後にユーザは電話のタイプを変更できます。クライアントはユーザ設定を保存し、次回以降の起動時にこの設定を使用します。</p> <p>有効 (Enabled) 通話にデスクフォン デバイスを使用します。</p> <p>無効 (Disabled) (デフォルト) 通話にソフトフォン (CSF) デバイスを使用します。</p>
Jabber For Windows ソフトウェア アップデート サーバ URL (Jabber For Windows Software Update Server URL)	クライアント アップデート情報を保持する XML 定義ファイルへの URL を指定します。クライアントは、この URL を使用して Web サーバから XML ファイルを取得します。
問題レポート サーバ URL (Problem Report Server URL)	ユーザが問題レポートを送信できるようにするカスタム スクリプトの URL を指定します。

任意のプロキシ設定

クライアントは、プロキシ設定を使用してサービスに接続する場合があります。

次の制限は、これらの HTTP 要求にプロキシを使用する場合に適用されます。

- プロキシ認証はサポートされていません。
- バイパス リストのワイルドカードはサポートされています。
- Cisco Jabber は、HTTP CONNECT を使用した HTTP 要求に対してプロキシをサポートしますが、HTTPS CONNECT が使用された場合はプロキシをサポートしません。
- Web プロキシの自動検出 (WPAD) はサポートされていないため、無効にする必要があります。

必要に応じて、クライアントタイプの手順に従ってプロキシ設定を設定します。

Windows 版 Cisco Jabber のプロキシ設定

インターネットプロパティのローカルエリア ネットワーク (LAN) 設定での、Windows のプロキシ設定を行います。

手順

ステップ 1 [接続 (Connections)] タブを選択し、[LAN の設定 (LAN Settings)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかのオプションを使用してプロキシを設定します。

- 自動設定の場合は、.pac ファイルの URL を指定します。
- プロキシサーバの場合は、明示的なプロキシアドレスを指定します。

Mac 版 Cisco Jabber のプロキシ設定

[システム設定 (System Preferences)] で Mac のプロキシ設定を行います。

手順

ステップ 1 [システム設定 (System Preferences)] > [ネットワーク (Network)] の順に選択します。

ステップ 2 リストからネットワーク サービスを選択して、[詳細 (Advanced)] > [プロキシ (Proxies)] の順に選択します。

ステップ 3 次のいずれかのオプションを使用してプロキシを設定します。

- 自動設定の場合は、.pac ファイルの URL を指定します。
- プロキシサーバの場合は、明示的なプロキシアドレスを指定します。

Cisco Jabber iPhone and iPad のプロキシ設定

iOS デバイスの Wi-Fi 設定で、次のいずれかの方法でプロキシ設定を構成します。

手順

ステップ 1 [Wi-Fi] > [HTTP プロキシ (HTTP PROXY)] > [自動 (Auto)] の順に選択し、.pac ファイルの URL を自動設定スクリプトとして指定します。

ステップ 2 [Wi-Fi] > [HTTP プロキシ (HTTP PROXY)] > [手動 (Manual)] の順に選択し、明示的なプロキシアドレスを指定します。

Android 版 Cisco Jabber のプロキシ設定

手順

Android デバイスの Wi-Fi 設定で、次のいずれかの方法でプロキシ設定を構成します。

- **[Wi-Fi] > [ネットワークを変更 (Modify Network)] > [詳細オプションを表示 (Show Advanced Options)] > [プロキシ設定 (Proxy Settings)] > [自動 (Auto)]** タブで、自動設定スクリプトとして .pac ファイルの URL を指定します。

(注) この方法は、Android OS 5.0 以降および Cisco DX シリーズのデバイスでのみサポートされます。

- **[Wi-Fi ネットワーク (Wi-Fi Networks)] > [ネットワークを変更 (Modify Network)] > [詳細オプションを表示 (Show Advanced Options)] > [プロキシ設定 (Proxy Settings)] > [自動 (Auto)]** タブで、明示的なプロキシアドレスを指定します。
-